

「谷山市との合併、平成の合併を経て60万都市へ」

昭和41年の鹿児島市議会6月定例会は6月10日から29日まで20日間の日程で開かれ、谷山市（人口約4万4千人）との合併議案については、本会議での質疑の後、「隣接市町村合併対策委員会」に付託されました。委員会は18日から23日までの間、市内14カ所で市民説明会を行うとともに、市議会議事堂では公聴会を開くなどして審査を重ねました。

委員会では、「時期尚早であり、継続審査にすべき」との意見と「原案どおり可決」とする意見に分かれ、採決の結果「原案どおり可決」とするものが賛成多数となりました。同議案は、6月29日の最終本会議において、賛成多数で原案どおり可決されました。

一方、谷山市議会では「合併対策特別委員会」が18日から21日までの4日間にわたり、市内11カ所で住民説明会を行いました。説明会では、「合併により末端行政の低下にならないか」「税など住民

負担が重くならないか」など合併後を懸念した意見がありました。そして、鹿児島市に先立つ6月23日に合併議案は賛成多数で可決されました。

両市議会の合併議案議決に伴って、県知事と自治大臣との協議、県議会の議決などを経て、42年4月29日、人口約38万5千人、面積約279平方キロメートルの鹿児島市が誕生しました。

その後、平成16年11月1日には吉田、桜島、喜入、松元、郡山の周辺5町と合併し、人口約60万5千人、面積約547平方キロメートルの新生鹿児島市が誕生し、現在に至っています。



谷山市との合併を伝える新聞